

【平成 24 年度・前期学期・ミクロ経済学 I・期末試験の準備問題】

☆ 期末試験の試験範囲です。提出の必要はありません。

【問 1】 次のようにある財への需要と供給が与えられている場合について(A)~(C)に答えなさい。

$$\text{需要: } Q_d = 7 - 0.8P$$

$$\text{供給: } Q_s = -2 + P$$

- (A) この市場の需要および供給直線をグラフに作図し、均衡価格および均衡数量を求めなさい。
- (B) いま、供給線が $Q_s = -7.4 + P$ にシフトしたとき、新しい均衡価格均衡数量を求め、(A) における均衡との間において、価格弾力性をもとめなさい。この価格弾力性から、需要は価格弾力的か非弾力的か判定しなさい。
- (C) 今、(A) の状態の市場に、上限規制価格 $\bar{P} = 6$ が施行されたとすると、この市場にどの程度、超過供給もしくは超過需要が存在するか示しなさい。(図を描き直して示すこと)
- (D) (A) の状況における消費者余剰と生産者余剰を計算しなさい。
- (E) また、(A) の状態の市場に、上限規制価格 $\bar{P} = 4$ が施行された場合について、(C) (D) を繰り返しなさい。

【問 2】 次のような市場の状況を作図し、均衡価格の変化を示しなさい。

- (1) 供給が完全に弾力的である市場において、補完財の価格が上昇した。
- (2) 需要が完全に非弾力的である市場において、技術革新により、生産コストが減少した。
- (3) 需要の価格弾力性が非常に小さい(絶対値において)市場で、投入要素の価格が上昇した。
- (4) 需要の価格弾力性が非常に大きい(絶対値において)市場で、代替財の価格が上昇した。

【問 3】 ある消費者が、2000 円の予算でチョコレートとドリンクを購入する場合について答えなさい。ただし、C をチョコレートの消費量、D をドリンクの消費量とする。

$$\text{チョコレートの限界効用: } MU_C = 4D$$

$$\text{ドリンクの限界効用: } MU_D = 4C$$

$$\text{チョコレートの価格: } P_C = 50$$

$$\text{ドリンクの価格: } P_D = 100$$

- (1) この消費者の予算線を数式で示しなさい。
- (2) 消費者均衡を求める、条件を数式で述べ、消費者均衡におけるチョコレートとドリンクの消費量を求め、消費者均衡を表す図(必要な数値をグラフ上に記入したもの)を描きなさい。
- (3) この消費者の、消費者均衡における総効用量を求めなさい。ただし、(総)効用関数は

$$U(C,D) = 4C \cdot D$$

であらわされる。